

※影響人員に誤りがありましたので、訂正しております。



NEWS RELEASE

2026年1月26日

記録的な豪雪による列車への影響について

1. 概況 1月25日の札幌圏での記録的な豪雪及び低温の影響により、各駅にてポイント不転換に伴う除雪作業及び列車のブレーキ装置凍結により、運休・遅れが発生しておりましたが、13時以降、一部線区を除き順次運転再開となりました。

2. 被害状況 別紙1 駅の降雪状況について
別紙2 列車のブレーキ装置凍結について

3. 運休列車

【1月25日】

545本（特急列車：65本、快速エアポート：140本、快速・普通列車：340本）

【1月26日（8:50時点）】

405本（特急列車：69本、快速エアポート：78本、快速・普通列車：258本）

4. 影響人員（1月26日8:50現在）

約230,300人

5. その他

1月26日の夜間に札幌圏の駅で集中的な除雪作業を行うため、一部列車を運休します。この影響により一部の方面では最終列車の時刻が変更となります。

【運休列車（1月26日）】

- ・札幌 23:34分発 千歳行き普通列車
- ・札幌 23:38分発 当別行き普通列車
- ・札幌 23:59分発 あいの里公園行き普通列車

※あいの里公園・当別行きの最終列車は札幌 23:08 発当別行き普通列車

駅の降雪状況について

別紙 1

《手稻駅》

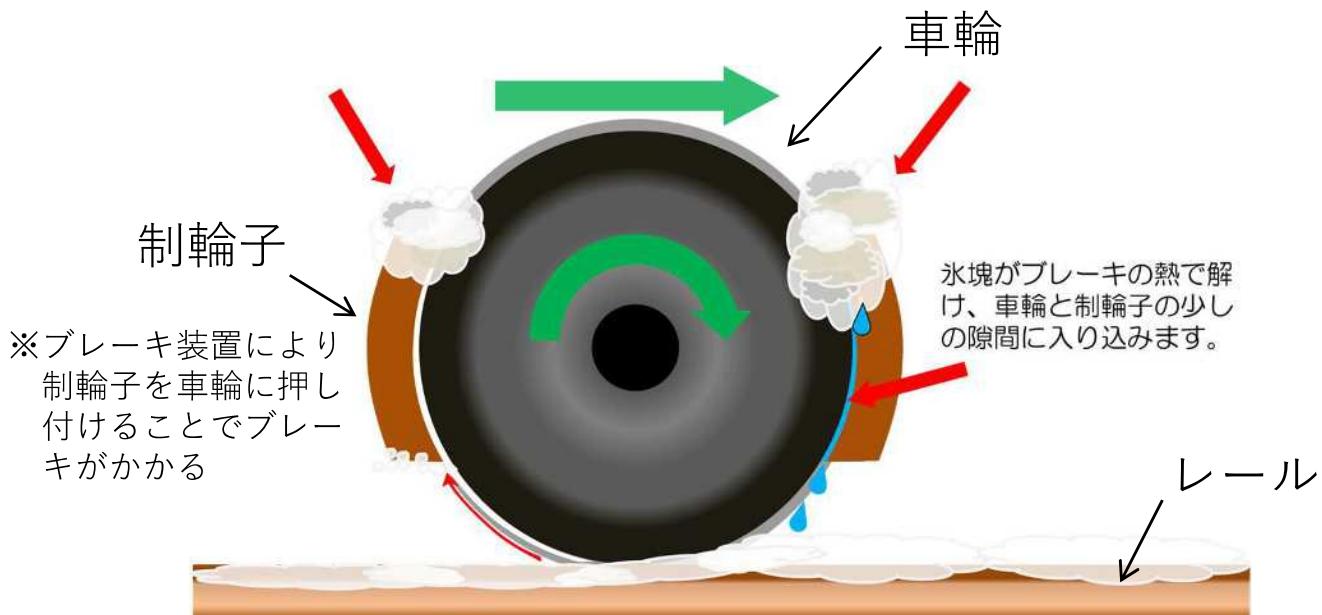


《銭函駅》



ブレーキ装置の凍結について

- ① 冬期間線路上を走行すると、車輪踏面に付いた氷雪や巻き上がった雪が車輪と制輪子の隙間に挟まったり、制輪子・ブレーキ装置や台車周りに氷塊となって付着します。



- ② 車輪と制輪子が凍結した状態で起動すると、凍結した車輪を引きずったまま車両が移動することになります。
そのままの状態で走行すると、レールとの摩擦で車輪が平らに削られてキズが発生するため、走行させることができません。そのため、解着作業を行う必要があります。

